

近江物産

「ポリッパとスバイスの効いた職人芸が光る会社」。ポリプロピレン（PP）リサイクルで業界最大の生産量を誇る滋賀県栗東市の近江物産は、産学連携などによって再生プラスチックの新境地を探る業界屈指の技術集団として存在感を強めている。その企業風土は芝原誠二社長の叔父で2015年までトップを務めた芝原茂樹氏（現会長）が培ったオープンイノベーションの精



芝原誠二社長

神が増ったものだ。会長のDNAを受け継いだ芝原社長も再生PPメーカーの未来の姿を探るため新たな事業戦略を実行に移し始めている。

その一つが再生PPのより高度な品質管理体制の構築を目指した人材育成プロジェクト。「自動車用途などの高品質PPの市場拡大などを背景に、当社が求められる品質管理の水準は高まっている。社

# 品質管理スキル底上げ

## 再生PP、車向けなどの

員のスキル向上を目指す人材育成は喫緊の課題。品質管理検定などの取得を進めスキルの底上げを図りたい」と芝原社長は強調する。

優秀な理系学生の確保も経営戦略の柱だ。芝原社長は「物質化学系の大学生の工場実習を引き受けることもある。これも産学連携の一環といえ、学生確保に結びついたケースもある」とも。

同社の樹脂リサイクルは1985年に進出した車載バッテリーのPP製ケース再生が出発点。その後、バッテリーケースのリサイクルで培った技術を磨き自動車・家電など幅広いPP再生に進出。PP再生量は国内の再生の1割に相当する年2万トに達している。経済産業省から先端事業投資促進事業の認定を受け2億円近い投資を行って車載向けの高品質PPを製造する専用ラインを新設した。新事業の開拓にどれだけ加速をつけどこへ向かうのか。リサイクル32年の業史が培った「近江クレード」の評価は年々高まっている。